

平成27年度指定 第5年次
岩手県立盛岡第一高等学校

研究開発構想

[イーハトーブ世界の開拓者の育成]



岩手県立盛岡第一高等学校スーパーグローバルハイスクール（SGH）研究開発構想

◆目的 グローバル課題を発見し、原因を探り、解決法を探究・議論し、その成果を本国のみならず、世界のパイロットモデルとして発信する一連の取り組みを通して、21世紀の理想的なグローバル社会を開拓し得る人材の育成を目指す。

◆目標

- ・グローバル課題の解決方法を探究し、その成果を世界へ向けて発信するとともに主体的に課題解決に向けた実践を行う姿勢を養う。
- ・世界の諸国・諸地域の実態と抱える課題への関心を高めるとともに、論理的思考力、課題解決能力、積極性、行動力を養い、主体的な学びを醸成する。
- ・他者との相互理解・協業に必要な傾聴力、共感力、質問力、説得力を育成し、自分の考えを分かりやすくかつ説得的に伝える力を身に付ける。
- ・上記3つの目標を十分に達成するに足る実践的な英語力を習得する。

岩手

イーハトーブ世界の開拓者の育成

・東日本大震災からの復興
・著しい高齢化
世界各地で発生が懸念されるグローバル課題が先鋭的に存在
・I L C 誘致活動
宇宙の誕生の解明

SG課題研究Ⅲ（3年普通科全員）

・岩手から国内および海外へ研究成果を発信

・ 英文による論文作成 ・ 英語による成果発表

SG課題研究Ⅱ（2年普通科全員）

・論理的思考力、問題解決能力の育成
・課題研究のテーマ 『岩手が抱える6分野の諸問題をグローバルな視点で解決する探究活動』

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| ① 21世紀型地方都市の探究 | ② ローカルな魅力を活かしたグローバル観光モデルの探究 |
| ③ “Made in Iwate” ブランドの確立に向けた探究 | ④ グローバルスタンダード教育モデルの探究 |
| ⑤ グローバルな知の拠点の創造に向けた探究 | ⑥ 世界を支える地域医療の探究 |

・ 課題研究発表会

・ 連携大学や企業との共同研究

・ SG海外研修（台湾）

・ SG講演会

SG課題研究Ⅰ（1年全員）

・問題発見能力、コミュニケーション能力の育成

フィールドワーク、グループワーク、ディベート、プレゼンテーションという一連の取り組みを通じてグローバル課題の抽出からその解決法の模索までの探究活動

・実践的な英語力の育成

「グローバルコミュニケーション英語」

・国際時事問題に対する関心と専門性の育成

「グローバル現代社会」

岩手大学、岩手医科大学、東北大学など

・指導プログラム開発への助言
・講義（講師派遣、サテライト授業）
・TA（大学生、大学院生の派遣）
・留学生とのディスカッション

企業、国際機関、海外の大学海外の高校 など

連携

◆これまでの取り組み

- ◇国際交流事業（S55～）
 - ・海外派遣研修（のべ483名）
 - ・外国人高校生受入（のべ232名）
- ◇理数科振興プログラム
 - ・課題研究（連携：岩手大学等）
 - ・つくば研修
 - ・施設見学実習

課題研究以外の取り組み

海外派遣研修
「白聖の翼」

・約1か月の本校独自の海外派遣事業

グローバル研究会

外国人高校生招致

SGH、SSH校との合同発表会

英語版学校案内

英語部の活動充実

外国大学進学研究

研究開発・実践や高大接続について(事例)

・教育課程表や時間割上の工夫

→本校では教育課程を変更することなく総合的な学習の時間でSG課題研究として実施。

既存の科目の弾力的運用で課題研究をサポート！

「コミュニケーション英語Ⅰ」を「グローバルコミュニケーション英語Ⅰ」

中学校で獲得した英語の基礎知識と高等学校で新たに学ぶ文法表現等を四つの領域にまたがった言語活動において活用することに力点を置いた指導法の開発。グローバル課題を英語で学習するCLIL的なプログラムを実践。

「現代社会」を「グローバル現代社会」

- ・課題研究型の学習の教材開発とその指導法の充実
- ・「SG課題研究Ⅰ」と連携し、「現代社会」の学習内容を深化させて政策としてまとめる学習活動を実践。

・各教科の授業においてSGHがどのように意識されているか(授業実践例)

コミュニケーション英語Ⅱ

一年を通してディベートやプレゼンテーションなどのコミュニケーション活動

世界史A・B

岩手大学の留学生による出身国の歴史や地理、現状についてのプレゼンテーション、ディスカッション

日本史B

人文科学的フィールドワークの手法を習得するための盛岡市内に所在する文化財の調査。ポスターセッション

地理A

地域のハザードマップを検証し、地域の災害についての認識を深め、災害時における行動の在り方についてプレゼンテーション

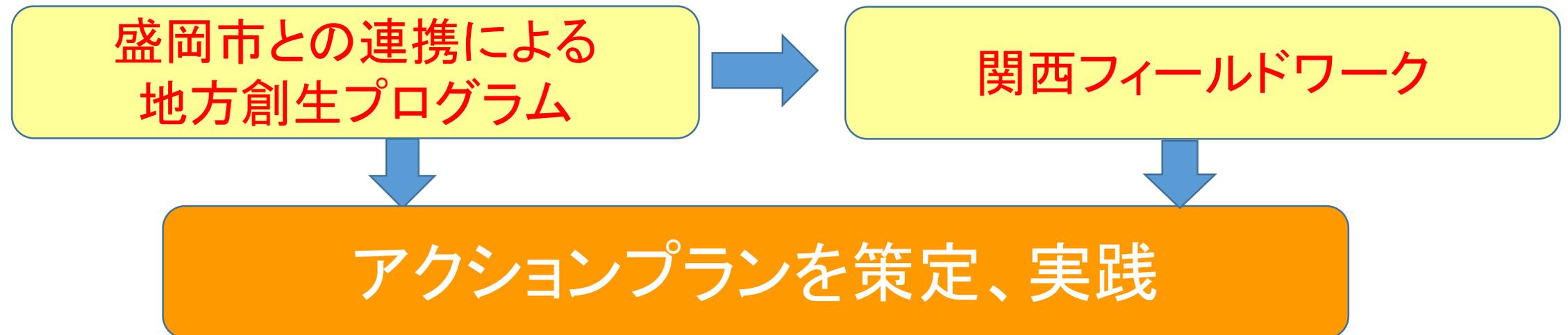
情報の科学

情報機器を活用した関連情報収集、プレゼンテーションソフトの効果的な利用法

・課題研究の指導の工夫(「総合的な学習の時間」の取り組み)

(1) SG課題研究 I (1学年)

3年間にわたり展開するSG課題研究の導入に当たる本取組では、とりわけ「**課題の発見**」を重視し、本校が所在する岩手県というローカルな視座からグローバル課題を俯瞰し、それに関わる社会人と交わることを通じ、課題発見から調査、そして解決策の策定及びプレゼンテーションという一連の**探究のメソッド**を習得することを目的としている。



(2) SG課題研究Ⅱ(2年生)

「岩手が抱える6分野の問題を グローバルな視点で解決する探究活動」

ア) SG課題研究Ⅰとの接続

1年次では地方創生をテーマとしていたため、その成果とグローバル課題との間をいかに架橋していくかという点が新たな課題となる。

イ) アクションの重視

SG課題研究Ⅰのまとめとして案出したアクションプランを実行に移し、その結果を検証するところから新たな探究を導き出す。

ウ) 更なる主体性の引き出し

「フリーライダー」問題のように、なかなか前のめりになれず、受動的・消極的な取組に終始してしまう者をなくす試み。

グループを必要に応じて再構成し、同じ志を持つ者同士で存分に活動ができるような土壌を用意。

SG課題研究Ⅱの具体的研究例

①トリリンガル育成を目指す児童向け異文化理解プログラムの開発

→留学経験のある生徒がグループとなり、その経験を地域の子どもたちに還元



マイプロジェクトアワードにおける発表風景

②県産木材を活用したアスレチック建設の提案

→県産木材の利用促進をはかる条例を活用し、県や市に陳情



盛岡市議会におけるプレゼンテーション

(3) SG課題研究Ⅲ

1年生を対象とするSG課題研究Ⅰでは研究の基礎的方法を学び、2年生を対象とするSG課題研究Ⅱでは、その成果を活用し、外部指導者と密に連携しつつ本格的な学術研究に挑む。

3年生で取り組むSG課題研究Ⅲは、**2年間の研究成果を英語でまとめ、相互にプレゼンテーションし合うことで、国際的な発信力を涵養**するという仮説の下で行われる、3年間にわたるSG課題研究の集大成となる取組である。



評価方法

→成果や課題を示すエビデンスの収集方法

(1) 毎年同じ調査項目で実施しているアウトプットに関する意識調査。

(2) ルーブリックを用いて評価。ルーブリック的要素も加味した形で、1年次からの取組を連続的に自己評価するポートフォリオを作成している。研究の引継ぎ、深化発展にも資する。

今年度の実践で重視したこと

①一層のグローバル化

調査項目2・3・7・9でポイントがいずれも向上

7について、現状は決して好ましい数字とはいえない。特に今年度から提携を開始した台湾の大学や高級中学とすべての班がフランクに照会・連携できるような関係の構築が課題。

②アクションの重視

調査項目1・5でポイントがいずれも向上
SG課題研究Ⅱの取組が、多くの生徒たちの社会との関わりの端緒となったことは明白であり、かつ前年度以上に多くの生徒がそれを好意的に受け止めている。

質問項目	回答	H29	H30
1 自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組んだか	Yes	33%	61%
	No	67%	39%
2 自主的に留学や海外研修を行ったか	Yes	4%	9%
	No	96%	91%
3 将来留学したり国際的な仕事に就きたいか	Yes	42%	51%
	No	58%	49%
4 公的機関から表彰されたか。またはグローバルな社会課題・ビジネス課題に関する大会で入賞したか	Yes	9%	12%
	No	91%	88%
5 探究的な学習活動は好きか	Yes	69%	73%
	No	31%	27%
6 課題研究を通して自分の進路はより明確になったか	Yes	37%	28%
	No	63%	72%
7 課題研究を通して国外の機関や専門家と連携したか	Yes	0%	6%
	No	100%	94%
8 グローバルな社会課題・ビジネス課題に関する大会に参加したか	Yes	5%	5%
	No	95%	95%
9 高校卒業後、海外の大学へ留学・進学するか（予定を含む）	Yes	5%	11%
	No	95%	89%

・海外研修について



ボストンから**台湾**へ

生徒個々の課題研究の深化と持続可能な交流

生徒個々が取り組む課題研究と連動した海外における現地調査等を重視するため、日本と同様のグローバル課題を多く抱えるアジア圏の台湾に研修先を変更

現地におけるフィールドワークや現地高校生との共通のグローバル課題を通じたディスカッション等により、**主体的、対話的で深い学びが可能**

慈濟大学附属高級中学での学校案内プレゼンテーション



台北市内での街頭インタビュー



主な研修先

東華大学、慈濟大学附属高級中学(花蓮市)
政治大学、政治大学附属高級中学(台北市)

・特徴的な取組等

(1)「白堊の翼」

- ・平成30年はSG課題研究と連動を施行
- ・日本で探究した課題を日英で比較

(2)「課外活動としての探究活動」

- (ア)盛岡市福祉人材育成事業
- (イ)「盛岡という星で」SNS活用講座
- (ウ)盛岡まなび会議

(3)「SGH・SSH校との合同発表会」

- ・ILC(国際リニアコライダー)をテーマに成果発表

(4)「英語部の活動充実」

- ・SGH指定後、ディベート大会で県優勝、全国大会へ

(5)「外国大学進学研究」

- ・台湾留学セミナーを実施、高校卒業後直接台湾の大学への進学する生徒も

・管理機関としての取組について

支援の取組

(ア) 現在のSGH指定校に対する支援の取組(主な例)

- ・SGH関連事業の連絡調整
- ・訪問しての指導助言・相談
- ・各種発表会・研修会等における指導助言
- ・県教委主催グローバル人材育成事業(英語キャンプ等)へのSGH事業成果の還元
- ・運営指導委員会に係る委員委嘱及び情報共有

(イ) 指定終了後の支援の取組(予定)

- ・SGH研究分野の成果普及に係る連絡調整・指導助言
- ・県主催グローバル人材育成事業へのSGH事業成果の還元
- ・**探究活動成果の共有機会を提供**(例 探究活動成果の英語プレゼンテーション大会の開催)

・成果課題について

(1)SG課題研究

[成果]

- ・地域の教育資源との結びつきを得たこと
- ・盛岡市との連携、TORIC、INS(岩手ネットワークシステム)

[課題]

- ・研究内容の充実とともに外部での発表の場も増加し現体制での維持が困難
- ・指定終了後は校内組織の再構築
- ・委員会や部活化等の措置を行い、予算・人員を確保

(2)海外フィールドワーク

[成果]

- ・生徒個々が取り組む課題研究と連動した海外における現地調査を実施
- ・海外の協力校との継続的な関係構築

[課題]

- ・1、2年の課題研究と連動させる仕掛けが必要
- ・台湾の協力関係校と姉妹校関係へ発展
- ・受け入れ側として、国際交流に積極的ににかかわる必要性

(3)カリキュラム開発

[成果]

「総合的な探究の時間」に向け、3年間を通じた探究的学習のプログラムを確立

[課題]

- ・一定以上の水準の研究を求めるには時数不足。
- ・各自が自分の時間の中で取り組む事が必要で、強い動機付けが必要。

(4)進路

[成果]

SGUの大学への進学意識の向上

[課題]

- ・ポートフォリオの様式を洗練する。
- ・SG課題研究Ⅱの課題設定において、キャリアデザインの視点を常に意識させる。
- ・SGHの指定期間は終了する。本校が掲げた6つのテーマにしばられることなく、自分の進路研究と連動したテーマ設定をさせる必要がある。

・成果普及

(1) 成果発表

- (ア) 課題研究発表会(各学年)
- (イ) SGH・SSH校との合同発表会
- (ウ) 東北地区SGH課題研究発表フォーラム
- (エ) 岩手県教育研究発表会
- (オ) 行政機関との意見交換
- (カ) マイプロアワードでの発表等

(2) 管理機関との連携

- ・ 新たな探究活動成果の共有機会を提供
- ・ 県主催グローバル人材育成事業へのSGH事業成果の還元

事業の継続(今後)について

- ・地域の教育資源との結びつきを得たこと
→盛岡市との連携、TOLIC
- ・海外の協力校との継続的な関係構築
→台湾での海外フィールドワーク



限られた人的・時間的・予算的リソースの枠内でよりバランスの取れた能力の伸長を図り得るプログラムを構築



持続可能な本校オリジナルの探究学習モデルの完成

	SG指定期間（令和元年）	SG指定期間終了後
内容	SG課題研究	総合的な探究の時間
SG課題研究	<ul style="list-style-type: none"> 外部指導者による指導 コースごとの指導者に謝金が発生 指定終了後の課題研究の雛形になるよう、研究をすすめる。 全職員で取り組む体制の構築。 	<ul style="list-style-type: none"> 市役所、大学、民間団体等の今まで培った外部機関をフルに活用し、指導していただける体制をつくる。盛岡市との共同プログラムを継続、深化を図る。
海外FW	<ul style="list-style-type: none"> 台湾での連携機関を確立し、指定終了後も継続を目指す。 	<p>（予定案）</p> <ul style="list-style-type: none"> R2年、R3年は同窓会からの支援を受け、指定期間同様選抜された生徒による派遣を行なう。 R4年からは1年次で行なっている関西研修旅行を台湾に変更し、2年次で実施。連携機関との交流やFWを行ない、課題研究Ⅱとの連携を図る。
ICT機器	<ul style="list-style-type: none"> SG予算で大型プリンター、タブレット端末等の機器を整備 情報管理課と連携して、より良い機器のあり方、使い方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> SG予算がつかなくなるので、学校予算の中でできることに集約せざるを得ない。 校内Wifiの整備。端末は個人のものを利用。 大型プリンタは必要
進路関係	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動を記録できるポートフォリオの様式の開発と運用。 AO入試等への活用を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 新入試制度ではポートフォリオが必要。 AO入試等で活用
運営主体	<ul style="list-style-type: none"> SGH推進課 新学習指導要領検討委員会で次年度の体制を検討 	<p>（予定案）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」の運営主体となる新たな組織の設立